

イヴ・デュティユ：「子供たちのすべての権利」

安藤 はる子

愛知みずほ大学人間科学部人間科学科

フランスのシンガー・ソングライターのイヴ・デュティユが、最近、「子供の権利条約」を歌にした。歌の内容がとてもよいので、紹介したい。

(1) 日本語訳 (注1)

「子供たちのすべての権利」

大人が君をだまして
君が大切に持っていたかった花をとりあげたので
君が泣く時
ぼくは君になる

君の血管の中には
ほんの少しぼくの血も流れている
もし君が悲しむなら
ぼくも、苦しむ……

もし、「時」という石に
最も有益であるか、最も大切な言葉を刻むとするなら
ぼくは、そう長いこと考えなくてもまず第一に
「正義」という言葉と「自由」という言葉がくると思う

「真実」という言葉は、それらの後か前にくるだろう
罪人（つみびと）は「真実」を恐れるし、
犠牲者は「真実」を待つものだ
言葉の中にはこんなふうに
驚くべき力を持っているものもあるんだ
これらの言葉はそれだけで
「子どもたちのすべての権利」を言い表わしている

ぼくはこれらの言葉をささげたい
地上のすべての子どもたちに
恐れや痛みや戦争のさなかに生きている子どもたちに
これらの言葉のもつ力は いつの日か かれらに
平和や やさしさを 愛への道すじを開いてくれるだろう

これらの言葉は厳然と存在しているんだ
そして、もし君がこれらを読むことができるのなら
君は 幸福に対して

君がすっている空気に対して
君の心の中の太陽に対して、権利があるんだ
君は 君自身のものになれるんだ……

もちろんこれらの、法学者たちによって選ばれたむずかしい言葉は
退屈で 複雑で ほんの少しさみしげにみえる
でもこれらは、君たちにとってはまず何よりも
狼から子羊を守るために書かれた 愛の言葉なんだ

これらの言葉は、無垢な心に恐怖を抱かせる
すべての沈黙の壁を打ち砕くことができるだろうか？
これらの言葉だけが なすすべもなく
深い夜の闇の底に沈んでしまっている子供たちに対して
もう一度「苦しみを忘れること」を可能にしてあげられるだろう

どんな国の子であれ すべての子供たちには
一番強い者の声がいつもよりよいものとは限らない
ということを教えてくれる
これらの言葉の花束が必要だったんだ
子供たちが いつの日か
彼ら自身の声をあげることができるためには
子供たちには幸福になる権利があるんだ……

君が泣いている時 ぼくは君だよ
でも、君が歌っている時も 笑っている時も
やっぱり ぼくは君だ……

君は 君の人生に対して権利があるんだ
君は 君の人生に対して権利があるんだ
君は 君の人生に対して権利があるんだ

(2) イヴ・デュティユについて

イヴ・デュティユは、1948年7月24日、パリ生まれのシンガー・ソングライターである。16歳の頃から、ギターを抱えて、ストリートで弾き語りをしてながら、腕をみがいていったということである。フランスでは、1977年に発表された3枚目のアルバム『タランテラ』が爆発的に売れ、スターの座を獲得した。日本では、彼の作品の中から子供をテーマにしたものを選んで作られた『光の中の子供たち』というタイトルのレコードが、1980年に初めて発売された。これ以降、日本でもイヴ・デュティユのファンは多い。(注2)

彼は、日常のさりげないひとコマや、ごく普通の人たちのことを、心をこめて、シンプルで美しいメロディーにのせて歌う。それ故、彼の歌は、フランスでも、日本でも、幅広い世代の人々に、息長く愛され続けている。

イヴ・デュティユは、現在は、シンガー・ソングライターであると同時に、フランス・プレシー村の村長さんでもある。人口500人の村の村長として、日々、様々な問題と格闘しているとのことだ。(注3)

授業でも、イヴ・デュティユの曲は何曲か、歌詞カードを作って、学生と一緒に聞いている。1981年に日本で発売された『妖精たち』というアルバムからは、「モンソー公園」と「ある夜の通行人に捧ぐ」という曲の歌詞カードを作った。「モンソー公園」では、パリのモンソー公園を舞台にした16歳の時の初恋の思い出がコミカルに歌われている。「ある夜の通行人に捧ぐ」では、お金もなく、ギター片手にストリートで歌っていた頃の、深い孤独や前向きで真摯な情熱などが、美しい旋律とともに歌われている。

「子供たちのすべての権利」は、2004年4月に

日本で発売された『待たないで……』というアルバムに入っているが、このアルバムからはもう一曲、「イエン」という曲の歌詞カードを作った。イエンは、多分、ベトナムからフランスに養子としてやって来た女の子だと思う。彼女が、フランスになかなかなじめず苦しんでいる様子をイヴ・デュティユがまじかに見ている作った曲なのではないかと思う。彼女をやさしく力強くはげます歌になっている。『待たないで……』の中には、歌詞カードを作ってみたくらいの曲がまだまだあるので、歌詞の内容をじっくりと自分のなかであたためながら、また作っていきたくて思っている。

(3) 「子供たちのすべての権利」について

子供の権利条約(児童の権利に関する条約)は、1989年の国連総会で採択され、日本では、1994年に批准された。イヴ・デュティユのこの曲は、フランスの家庭担当大臣から、条約の精神をわかりやすく伝える曲をつくってほしいと依頼され、彼が作ったものだ。フランスでは、2003年の、条約発効記念日11月20日に、フランス政府がCDにし、小学3年生5万人に配られた。(注4)

「子供の権利条約」は、全部で54カ条からなり、内容も多岐にわたっている。この、子供が一読してもなかなか頭に入らないと思われる条約を、イヴ・デュティユは、「正義」「自由」「真実」という3つのキーワードを使って歌にしている。大人の不正に苦しむ子供たちが、これらの言葉をきちんと理解することによって、彼ら自身が固有に持っている「権利」に目覚め、彼ら自身の声をあげることができるまでに成長する。このような子供たちの成長を願って、イヴ・デュティユは、できるだけシンプルな言葉で、子供たち一人一人に静かに語りかける姿勢で、この歌を作っている。こんなイヴ・デュティユの、静かで誠意のあるまなざしがあふれている曲である。

この曲の日本語版も作られ、フランス語版と同様、アルバム『待たないで……』に収録されている。なお、この『待たないで……』の日本での発売日、2004年4月7日は、「子供の権利条約」が日本で批准されて10年目にあたる日である。

〈注〉

- 1) 原題: *Tous les droits des enfants*, イヴ・デュティユ『待たないで』、キングレコード、2004年所収。
アルバム『待たないで……』の中には、中村敬子氏による、フランス語版の和訳と、日本語版の歌詞が、共に、収録されている。中村氏による2種類の日本語

訳を参考にさせていただきながら、ここでは、安藤訳を試みた。できる限り原文の内容に忠実に訳してみたつもりである。

- 2) このあたりの内容については、1981年日本発売のアルバム『妖精たち』(東芝EMI)における、永田文夫氏の解説を参照させていただいた。
- 3) この数字等については、2004年4月26日の朝日新聞に掲載された、フォーラム「うたおう 子供の権利」における、イヴ・デュティユの基調講演より抜粋した。
- 4) このあたりの内容については、2004年4月7日の朝日新聞(夕刊)に掲載された記事による。

〈参考文献〉

- 1) 平成18年版『教育小六法』、学陽書房

